

藤島地域小中学校整備検討委員会 第3回会議次第

日時：令和6年11月14日（木）午後6時30分～

会場：藤島地区地域活動センター大ホール

1 開会

2 挨拶

3 報告

（1）各小学校区懇談会の状況

資料 No. 1

（2）整備検討委員会における意見等

資料 No. 2

4 協議

（1）教育委員会への報告について

資料 No. 3

（2）その他

5 その他

6 閉会

藤島地域小中学校整備検討に係る各小学校区懇談会の結果概要について

第1回藤島小学校区懇談会 | 令和6年8月24日(土)

■主な委員意見：下のとおり ※すべて賛成意見

- ・ 1 から 9 年生までの共同生活で社会性が養われる。
- ・ 伝統行事を習い発表する場は大事。
- ・ 小学校卒業の代わりとなる節目行事に配慮してほしい。
- ・ 若い世代、保護者世代の意見が重要。(複数)
- ・ より一層保護者の意見を聞き、不安払拭に努める必要。(複数)
- ・ 文厚エリア全体のイメージを示してほしい。

第2回藤島小学校区懇談会 | 令和6年9月26日(木) (第2回で終了)

■結 果：施設一体型の義務教育学校の整備に賛成する旨に附帯意見を添えて報告する

■主な委員意見：下のとおり

- ・ 早く進めてほしい。具体的な議論に時間を割きたい。(複数)
- ・ 学校長には情熱がある方を選定してほしい。
- ・ 子どもの教育環境は自分たち大人が考えていく必要。
- ・ 複式学級は解消すべき。(複数)
- ・ 節目の行事を大切にしてほしい。(複数)
- ・ 年齢が離れた子どもが一緒にいることで学ぶことが多い。(複数)
- ・ 整備にあたっては子どもの意見を聞いてほしい。(複数)
- ・ 伝統行事を習い発表する場を作れば、地域全体で継承できると思う。
- ・ 文厚エリアの施設(武道館、図書館、学童)をよく考えてほしい。(複数)
- ・ 長沼小は地域の反対がありながらも統合したが、今は良かったと思う。(複数)

藤島小学校区懇談会の結果

1 施設一体型の義務教育学校の整備に賛成である。

2 附帯意見

- (1) 教育課程編成にあたり、児童・生徒の成長の機会となる節目の行事、地域の伝統行事へのかかわりなどについて配慮すること
- (2) 児童・生徒、教員にとってより良い教育環境となるよう適切な体制を整えること
- (3) 藤島文厚エリアの諸施設の整備と一体に検討を進め、施設の将来像を示すこと
- (4) 児童・生徒、保護者、教員等関係者の意見を聞き、不安の解消、課題の解決に努めること
- (5) 学校施設の整備について、早期に取り組むこと

第1回東栄小学校区懇談会 | 令和6年8月28日(水)

■主な委員意見：下のとおり ※大半が賛成意見

- ・少子化、建物老朽化から小中一貫校は自然な流れ。
- ・義務教育学校の選択は教育委員会に任せる。
- ・不登校や小中ギャップの解消に期待。
- ・小中改築前に小学校統合を早くしてもらいたい。
- ・教員の連携を密にし、子どもに接して欲しい。
- ・閉校舎の管理・活用方法の検討が必要。
- ・小規模校は、勉強、運動、交友に弊害があるため、統合に賛成。(複数)
- ・スクールバスは、子どもの負担にならないように検討を。(複数)
- ・伝統芸能や地域の取組など、地域の賑わいが無くならないように。(複数)
- ・小中一緒だと、いじめが心配なため、施設分離型が良い。

第2回東栄小学校区懇談会 | 令和6年10月16日(水) (第2回で終了)

■結 果：施設一体型の義務教育学校の整備に賛成する旨に附帯意見を添えて報告する

■主な委員意見：下のとおり

- ・4-3-2制への対応など、先生方が大変でないか。
- ・小中学校が一緒になると地域の魅力が失われ、人が残らないのではないか。
- ・施設一体型の義務教育学校整備に早期に取り組むべきだ。(複数)
- ・整備の後に生じる課題をきちんと解決することが重要だ。
- ・保護者にアンケートを取ったところ、約7割が賛成であった。反対の中でも、統合には賛成だが小中学校が一緒になることに反対という意見が多かった。
- ・子どもの成長のため、節目になる行事を大事にしてほしい。
- ・教員のレベルアップに予算をかけ、教育の中身を良くしてほしい。
- ・少子化ありき、人口減少ありきで進められている。地域は学校が中心に活性化される。
- ・子どもは地域で育てるべきだ。
- ・複式学級の少人数環境は望ましくなく、施設改築前に統合を望む。
- ・伝統行事の継承がしっかりされるようにしてもらいたい。(複数)
- ・通学が負担にならないよう、スクールバスの運行等に十分配慮してほしい。(複数)

東栄小学校区懇談会の結果

1 施設一体型の義務教育学校の整備に賛成である。

2 附帯意見

- (1) 東栄地区の伝統行事である獅子踊りの継承が図られるよう、地域とのかかわりについて十分に配慮すること
- (2) 遠距離通学となる児童・生徒とその保護者の負担とならないよう、スクールバスの運行等の通学支援について十分に配慮すること
- (3) 児童・生徒の育ちを支えるため、節目の行事や適切な教員体制整備に取り組むこと
- (4) 児童・生徒、保護者、教員等関係者の意見を聞き、不安の解消、課題の解決に努めること
- (5) 学校施設の整備について早期に取り組むこと

第1回渡前小学校区懇談会 | 令和6年9月6日(金)

■主な委員意見：下のとおり ※大半が賛成意見

- ・保護者の多くは、早く進めてほしいという考え。
- ・集落座談会では全員が賛成で1年でも早くとの意見あり。
- ・施設一体型に賛成。分離型は反対。
- ・視察した義務教育学校の姿を藤島で見たい。
- ・スポ少では、他地区の子どもと良好な関係。
- ・活動センター事業で、中学生が小学生の世話をしている。
- ・閉校後も、保護者と協力し地域を盛り上げたい。
- ・施設改築前に小学校を統合して欲しい。
- ・子どもの意見を得る機会作ってほしい。
- ・低学年から中3まで一緒になると安全面で不安。
- ・複式学級に不安。子どもが可哀そう。(複数)
- ・小規模校で育った子が、社会に出てから対応できるか心配。(複数)

第2回渡前小学校区懇談会 | 令和6年9月28日(土)

■結 果：①施設一体型の義務教育学校の整備に賛成する旨報告する

②附帯意見は第3回懇談会で協議する

■主な委員意見：下のとおり

- ・義務教育学校整備に賛成であり、なるべく早く進めてもらいたい。(複数)
- ・いじめ対応などについて、十分なサポート、フォローをお願いしたい。(複数)
- ・複式学級の課題(子どもの発達、先生の負担等)が心配だ。(複数)
- ・不登校対策、特別支援教育について成果が期待できる。
- ・卒業、入学の節目に代わる行事を考えてほしい。
- ・学校内や通学のことについて、公平性ある対応をお願いする。
- ・スクールバスについては、乗車時間30分以内を目途に配慮してもらいたい。
- ・義務教育学校整備の前に小学校統合することも検討されたい。(複数)
- ・PTAで保護者にアンケートを取ったところ、教育振興会議の提言に賛成が多数であった。
- ・スポ少保護者にアンケートでは、施設隣接型併設型小中学校を望む声が多数であった。
- ・藤島文厚エリアの再整備に合わせ、学校施設の複合化について検討してほしい。
- ・学校施設の複合化について、地域の人が学校に出入りできるようにしてもらいたい。

第3回渡前小学校区懇談会 | 令和6年10月12日(土) (第3回で終了)

■結 果：附帯意見を報告する

■主な委員意見：下のとおり

- ・スクールバスは子どもの負担にならないように対応してもらいたい。(複数)
- ・小学校の主要科目でも教科担任制をできるようにしてほしい。
- ・文厚エリアの様々な施設を結ぶような動線の整備の検討を願う。
- ・鶴岡型小中一貫教育については全市で足並みをそろえて進めてもらいたい。
- ・改築前に小学校の統合を進めてほしい。(複数)
- ・早期の統合は、3つの小学校が同じスタートラインでの新設統合が良い。(複数)

渡前小学校区懇談会の結果

1 施設一体型の義務教育学校の整備に賛成である。

2 附帯意見

- (1) 教育課程編成にあたり、児童・生徒の成長の機会となる節目の行事、地域の伝統行事へのかかわりなどについて配慮すること
- (2) 児童・生徒、教員にとってより良い教育環境となるよう適切な体制を整えること
- (3) スクールバスの運行等、遠距離通学となる児童・生徒の通学支援について配慮すること
- (4) 児童・生徒、保護者、教員等関係者の意見を聞き、不安の解消、課題の解決に努めること
- (5) 学校施設と周辺の諸施設の連携のあり方について、施設の複合化や動線の確保等を検討すること
- (6) 学校施設の整備について早期に取り組むとともに、学校施設整備前の小学校統合について、新設統合を前提として検討すること



令和6年11月6日

藤島地域小中学校整備検討委員会
会長 萬年 義憲 様

東栄小学校区懇談会
会長 高橋 和夫

藤島地域小中学校整備検討に係る
東栄小学校区住民意向のとりまとめ結果について（報告）

標記のことについて、施設一体型の小中一貫校（義務教育学校）の整備に関し、下記のとおり住民の意向をとりまとめましたので、報告いたします。

記

1 とりまとめ結果

施設一体型の小中一貫校（義務教育学校）の整備に賛成である。

2 附帯意見

- (1) 東栄地区の伝統行事である獅子踊りの継承が図られるよう、地域とのかかわりについて十分に配慮すること
- (2) 遠距離通学となる児童・生徒とその保護者の負担とならないよう、スクールバスの運行等の通学支援について十分に配慮すること
- (3) 児童・生徒の育ちを支えるため、節目の行事や適切な教員体制整備に取り組むこと
- (4) 児童・生徒、保護者、教員等関係者の意見を聞き、不安の解消、課題の解決に努めること
- (5) 学校施設の整備について早期に取り組むこと

<担当>

東栄小学校区懇談会事務局
東栄地区自治振興会事務局





令和6年11月6日

藤島地域小中学校整備検討委員会
会長 萬年 義憲 様

渡前小学校区懇談会
会長 成澤 弘明

藤島地域小中学校整備検討に係る
渡前小学校区住民意向のとりまとめ結果について（最終報告）

標記のことについて、10月10日付けで中間報告いたしましたが、附帯意見について下記のとおり住民の意向をとりまとめましたので、報告いたします。

記

1 附帯意見

- (1) 教育課程編成にあたり、児童・生徒の成長の機会となる節目の行事、地域の伝統行事へのかかわりなどについて配慮すること
- (2) 児童・生徒、教員にとってより良い教育環境となるよう適切な体制を整えること
- (3) スクールバスの運行等、遠距離通学となる児童・生徒の通学支援について配慮すること
- (4) 児童・生徒、保護者、教員等関係者の意見を聞き、不安の解消、課題の解決に努めること
- (5) 学校施設と周辺の諸施設の連携のあり方について、施設の複合化や動線の確保等を検討すること
- (6) 学校施設の整備について早期に取り組むとともに、学校施設整備前の小学校統合について、新設統合を前提として検討すること

<担当>

渡前小学校区懇談会事務局
渡前地区自治振興会事務局



藤島地域小中学校整備検討委員会第1回、第2回 意見概要

■第1回会議（令和6年8月1日） 当日意見

- ・教育振興会議の提言を最大限尊重し、義務教育学校整備の課題や反対する理由をどのように解決するかを議論すべき。
- ・小規模校では集団生活での学びが十分とは言えないので、子どもたちのために小中一貫教育を進めるべき。
- ・反対意見にある人間関係の固定化は、小中一貫校ではなく、小規模校の昔からの課題。
- ・地域内の義務教育学校に対する理解度が低い。
- ・既存の義務教育学校の成果を示すべき。
- ・過疎化の観点から、中学校整備と小学校統合は別に考えるべき。
- ・多くの教職員が反対署名活動へ賛同していることを踏まえるべき。
- ・教員が義務教育学校への赴任を嫌がるとなれば、教育の質の低下につながるのではないか。
- ・義務教育学校の校長は中学校教諭が多いと聞くが、中学校教諭には幼保小連携の認識がないので、反対である。

■第1回会議後に提出された意見

- ・複式学級では勉強・運動・友達関係において弊害を感じる。
- ・小規模小学校から中学校に進学し、馴染めない生徒もいる。
- ・特別支援学級に関する小・中学校間の情報連携に不安を感じる。
- ・小中一貫校になることで子どもたちの教育環境が改善し、様々な不安が解消する。
- ・保護者アンケートの義務教育学校賛成 88%の結果を重く受け止めるべき。
- ・9年間の教育課程をこれまでの6・3制にこだわらず編制できることにメリットがある。
- ・英語やプログラミングなどの新しい教育内容に効果的なカリキュラムを編制できる。
- ・教科担任制を小学生から取り入れ、スムーズに中学生の学習に移行できる。
- ・幼保小連携については、中学校籍の校長が就任しても教頭・学年主任・学年団によって適切な指導がなされる。
- ・幼保小連携はこれまでも小1プロブレムの観点から重要視されており、計画的に丁寧に連携を図っている。
- ・小中2人の校長がいる一貫校では、組織が2つになり情報共有や判断に時間がかかる。
- ・義務教育学校の方が、小中の垣根を越えて1人の子どもを多くの教職員が見守ることができる。
- ・義務教育学校整備の賛否に時間をかけるより、具体的内容の検討に時間をかけたい。
- ・複式学級の課題解決のため、小学校だけでも先に統合してもらいたい。
- ・PTA 代表の方たちの意見も積極的に聞いてほしい。

■第2回会議（令和6年10月11日）意見

- ・義務教育学校と複式学級解消や統合の議論は別であり、中学校改築を先に進めるべき。
- ・小中一貫校の議論が進まないために中学校改築が遅れることが懸念される。
- ・各小学校区が義務教育学校に賛成する理由を明らかにすべき。
- ・議論を後戻りさせず、問題をどう解決するか議論をすべき。
- ・賛否よりも具体的内容の検討に時間をかけてもらいたい。
- ・教育委員会から、要望事項に対して取り組むとの返答があれば理解が進む。
- ・義務教育学校の開校により、中1ギャップ解消等の効果に期待する。
- ・PTAでの保護者アンケートでは、約88%が賛成であった。反対の理由は、「統合に反対」、「小中一貫校に反対」、「施設一体型に反対」、「不安・わからないから」の四つがほぼ同じ割合だった。前向きな意見も多く見られた。
- ・今後も児童数、教職員数が減少していく。早期に進めてもらいたい。
- ・不安を解消し、良い学校教育にすることで、地域に人が集まると期待する。
- ・中学校、小学校の築年数を考えると早期建替えが必要である。
- ・小中一貫校のメリットが最も得られる形態は義務教育学校である。
- ・小中連携では十分に解決できなかった課題を解決するために、小中一貫教育に取り組むのであり、小中一貫教育の推進には施設一体型が最適である。
- ・指導のために時間を割くのは教師として当然の責務である。
- ・いじめが発生した場合、環境が変わらないため卒業まで長く続く懸念がある。
- ・子どもや教員の負担を考えると小学校だけでも早く統合してほしい。
- ・多くの教職員が反対署名活動に賛同していることが気にかかる。
- ・先生方は、業務多忙化、異なる教育を行ってきた学校が一緒になることを心配している。
- ・児童生徒がいくら減ったとしても、教員を加配して二学級を維持してもらいたい。
- ・学校をどうするかよりも、子どもに何かあったときに対応できる体制が重要。
- ・子どもたちに大人の目が届く体制を作ってもらいたい。
- ・適切な人員配置により教職員の労働環境を整えてもらいたい。
- ・節目の行事を大切にしてもらいたい。
- ・小中一貫校から中高一貫校へ進学する場合の小中接続に配慮してもらいたい。
- ・学校施設の細かい条件を盛り込み、事業費を積み上げて確実に予算を確保すべき旨、附帯意見に記すべき。
- ・附帯意見の実行を確約してもらいたい。
- ・藤島の教育にお金をかけてほしい。（複数）
- ・子どもたちが過ごしやすい環境となることを望む。
- ・子どものことを第一に考えてすすめてもらいたい。

(案)

令和6年11月 日

鶴岡市教育委員会

教育長 布川 敦 様

藤島地域小中学校整備検討委員会

会長 萬年 義憲

藤島地域小中学校整備検討に係る藤島地域住民の意向の
とりまとめ結果について（報告）

施設一体型の小中一貫校（義務教育学校）の整備に関し、藤島地域住民の意向を
とりまとめた結果について、附帯意見を添えて下記のとおり報告いたしますので、
本報告を尊重の上、整備を推進くださるようお願いいたします。

記

1 とりまとめ結果

施設一体型の小中一貫校（義務教育学校）の整備に賛成である。

2 附帯意見

（1）教育課程の編成について

教育課程の編成にあたっては、小学校卒業に代わる節目の行事を行
うなど児童・生徒の成長の機会確保に努めるとともに、地域の伝統行
事の継承が図られるよう配慮し、地域の魅力が失われないよう、地域
活性化に繋がる魅力ある学校づくりに取り組まれない

（2）教育環境の整備について

児童・生徒、教員にとってより良い教育環境となるよう、幼保小の
円滑な接続に向けて丁寧な連携を図るとともに、適切な教員体制整備
と教員のレベルアップに取り組み、環境変化に適切に対応できるサポ
ート体制を整えられない

(3) 通学支援対策について

スクールバス運行等の通学対策の検討にあたっては、遠距離通学の児童・生徒とその保護者の負担軽減のため、乗車時間については概ね30分以内を目途にし、乗車場所の位置にも配慮されたい

(4) 安心感の醸成について

年齢の離れた児童・生徒間の安全面や、いじめ発生時の長期化、教員の負担増等に対する不安の声があることを認識し、児童・生徒、保護者、教員等関係者の意見を聞き、不安の解消、課題の解決に努められたい

(5) 周辺諸施設整備との一体的な検討について

学校施設及び藤島文厚エリア諸施設の整備について、複合化、動線の確保、地域住民と交流を図れる施設のあり方等の観点から、関係部局とともに一体的に検討し、施設の将来像を示されたい

(6) 学校施設整備等について

新しい学校施設の建築について可能な限り早期の竣工を目指すとともに、閉校後の旧校舎等の利活用について、地域住民とともに検討されたい

渡前小学校区懇談会からの要望として、新校舎竣工前の小学校統合について子育て世代の保護者の意見を聞き、三つの小学校が同じスタートラインとなる新設統合を前提として検討されたい